

第2回 豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会 議事録要旨

注) 議事録については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

○日 時 平成29年8月29日(火)午後1時30分～午後3時10分

○会 場 豊岡市役所立野庁舎 多目的ホール

○出席者 田垣委員 浜上委員 中嶋委員 中井委員 足立委員 國下委員
宮下委員 大垣委員 桑井委員 酒井委員 西池委員 谷委員
中江委員 林委員 高谷委員 柳委員

○欠席者 小西委員 川端委員

○次 第 1. 開会
2. あいさつ
3. 報告事項
(1) アンケート調査結果について(中間報告)(資料1)
(2) グループインタビュー結果について(中間報告)(資料2)
(3) 第4期障害福祉計画の成果目標等の進捗状況について(資料3)
4. 協議事項
(1) 計画の構成案について(資料4)
5. その他
6. 閉会

1. 開会

2. あいさつ

委員長：

- 第5期障害福祉計画、第1期障害児福祉計画において時間の迫っているなか、グループインタビューが進んでいる。また、アンケートの中間集計が出ており、中間報告を受けながら検討していただきたい。

3. 報告事項

(1) アンケート調査結果について（中間報告）

- 事務局より、資料1に基づき説明。

P委員：

- 障害児は年代によって、就労や次のステップを考える上でニーズが異なっていると思うので、すべての項目ではないと思うが、クロス集計を進めていただきたい。また、身体障害、知的障害別の集計も必要かと思われる。
- 回答率が、約3分の1強は仕方ないと思うが、障害の程度による回答率（例えば、障害が重い方の回答率が高いかどうか等）を示してほしい。

H委員：

- 25ページの間30のサービス利用について、不満と感じられている内容を良くすることが、サービスの向上になると思うので、今後、「その他」の内容も含めて、計画に活かしていくよう考えていきたい。

委員長：

- アンケートに回答すれば、何らかの反映があると期待されていると思うので、回答が必要と思われる。
- アンケートについては、委員からの意見も踏まえて、集計・分析を進めて最終報告をいただき、議論を重ねたい。

(2) グループインタビュー結果について（中間報告）

- 事務局より、資料2に基づき説明。

委員長：

- グループインタビューは、8月4日の視覚障害のグループからスタートして、現在、9グループのうち7グループまで終了しており、資料では3グループがまと

められている。グループインタビューに出席していただいている委員の皆さんから、ご意見をいただければと思う。グループインタビューの結果について、委員会として計画にどのように反映していくかということは、難しいと思うが、ご意見をいただきたい。

- 視覚障害者のグループインタビューについてはどうか。

G委員：

- これまでのグループインタビューでは、視覚障害者協会の会員からの参加者が多かったのですが、会員以外に参加してほしいとのことで案内をしたが、参加されなかったのが残念であった。
- 視覚障害は、どうしても交通弱者になってしまう。交通という点では、20年来、市の福祉と話をしていることがあり、タクシー券が給付されているが、この使い方を本人に任せてもらえないということである。視覚障害者もいら立っている。給付されたタクシー券の使い方になぜ制約をかけるのか全く理解できない。
- 毎回、要望書を出し続けているので、いずれ行政が対応していただけたらと思っている。
- 視覚障害に対する理解が足りないのではないかとと思っている。

委員長：

- 今回のグループインタビューでは、福祉サービスについてということであったが、サービスの不足に対する意見が出ており、委員会としてどう回答していくかは詰めておく必要があると思っている。

G委員：

- 65歳になる前から障害があり、64歳までは自己負担なしで障害福祉サービスを受けていた人が、65歳になると突然、介護保険サービスに組み込まれて負担がかかる。これについては、市では解決できないことではあるが、全国的に同様の意見が出ている。国の法改正までに、市で何か手当てできないものか。無理をして、家事援助を受けないようにしている人もある。

委員長：

- これら2点について、どう取り込んでいくのか。

事務局：

- 要望事項は承っているが、これを今すぐに計画にどのように反映するかは検討課題として預らせてほしい。

委員長：

- グループインタビューとして、このような内容を計画にどう取り込んでいくかは難しい。
- 発達障害者のグループインタビューについてはどうか。

N委員：

- 発達障害者のグループインタビューは、就労の話が中心であった。会社が障害者を理解できていない、健常者と同じように働けるのではないかと理解されてしまう。発達障害だけではなく、就労に関しては事業所への理解を深めることが重要だと感じた。

L委員：

- 発達障害者のグループインタビューでは、当事者の方が意見を発言されて良かったと思った。療育センターで療育を受けて大きくなった方と大人になってからの発達障害の診断を受けた方との意見で、療育を受けてきたことで、就労でつまづいたが、次を探せばよいと前向きな気持ちでおられるのは、自己肯定感ができたからだという意見があり、逆に、大人になってからの人では、そのような療育を今からでも受けたいというのが印象的であった。

委員長：

- 次に、肢体障害者・内部障害者のグループインタビューについてはどうか。

E委員：

- いろんな意見が出たが、体のどこかに障害があって、生活が不便で車を使う頻度が高いと駐車場が問題になり、これについて考えてほしいという意見があった。
- 全体的な大きな話ではなく、今できることができないかという意見があった。
- 鉄道の割引については、兵庫県の団体でも、鉄道会社や国に要望を出しており、これに豊岡市にも賛同してほしいという意見があった。すぐにできることでは、ウェルストーク、市役所、アイティの駐車場の利用方法について、通常と同規格のカードを作成し、それを配布してもらって、時間延長等も簡単にできるようにしてほしいという意見があった。

H委員：

- グループインタビューで感じたことは、あまり不満を語られなかった。内部障害については意見が出なかったのが残念であった。また、時間が早く済んだので、もう少し時間があっても良かった。

委員長：

- 次に、障害児のグループインタビューについてはどうか。

副委員長：

- 障害児グループの場合は、保護者の皆さんから意見をもらった。お子さんは小学校低学年や幼稚園などであり、サービスの利用や種類をつかめていなくて、どこに行けば情報が得られるのかという意見が中心だった。もっと情報発信が必要だと感じた。
- 他のグループインタビューも含めてであるが、もう何年も言っているという意見があった。何のためにこのグループインタビューを開くのかというグループもあった。それぞれのグループインタビューについて思うことは、障害の特性や障害があるがゆえに生活で一番困っている部分がそれぞれ異なっているので、障害福祉計画として1つにまとめられるようなものではないと思った。
- また、豊岡で実現しなければいけないと思ったことは、制度そのものを変えるのは難しいと思うので、豊岡の中で皆さんが快適に過ごしていける手立てや仕組みができればと思った。例えば、聴覚障害では、手話言語の法律を作っていくのが難しいので、とりあえず市で条例化の取り組みをしてほしいと以前から働きかけをしているが実現していない。朝来市は来年には条例化できるので豊岡市でも進めてほしいということであった。

委員長：

- 聴覚障害者のグループインタビューについては、感想をいただいたので、精神障害者のグループインタビューについてはどうか。

F 委員：

- 精神障害の方は年齢もかなり高くなっており、今は親の援助をもらいながら生活しているが、今後、経済的にやっていけるのかという不安の意見があった。
- 就労については、今は、個別就労が主になっているが、ピアサポーターによる仲間同士で助け合う観点から、グループ就労を受け入れてもらえないかという意見があった。一人では自分の思いや意見が言いにくい、また、愚痴もこぼしにくい、仲間がいると愚痴もなごみになって就労を続けていけるという意見もあった。また、就労生活面では自分のできることを理解してほしい。みんな同レベルで考えないで、できること、できないことをわかってほしいということであった。

K委員：

- 精神障害のグループインタビューは8名が参加された。長期入院をされていて地域移行支援を使って退院された方、就労継続支援A型、B型を使っている方、地域活動支援センターを使っている方、就労継続支援B型から一般就労に移行された方などいろんな人に集まってもらった。
- 年金のない方もあり、最初に経済的な問題の意見があった。働きたいが自分に合っている仕事がないこと、そもそも就労支援を受けている事業所が障害について理解がどうなのかという疑問があるという意見があった。そのようなことで、辛い思いをしている方があった。
- 共通していることは、発病してから苦しい時期があったが、就労継続支援B型、地域活動支援センターなど精神障害の方が集まる場で、仲間に出会えたことで元気になって良かったという意見があった。
- 8名のうち、入院経験者が7名いた。長期入院されている方が地域に帰ってくるには豊岡で何が必要かという点では、やはり住むところで、グループホームなどの住むところと精神障害の仲間がいるところ、例えば、精神障害者マンションなどあればよいという意見があった。

委員長：

- 最後に、知的障害者のグループインタビューについてはどうか。

D委員：

- 知的障害者のグループインタビューでは、くすの木学校参加者からの出席であった。参加者は、本人11名と支援者であり、全員が大人の知的障害者であった。
- 障害福祉サービスの利用は、日中支援で就労継続支援を利用されている方や事業所か一般就労されている方、また、グループホームに暮らしている方、在宅の方、移動支援を少し使っている方ということで、福祉サービスをそんなに意識されていなかった。そのため、今後の利用について、どんなサービスが必要かと言われてもわからないという意見であった。
- 皆さん、余暇も一人で動いておられ、生活介護、行動援護、ショートステイなど、他のサービス利用については聞けなかった。
- 重度の障害の方の場合、本人から意見を聞くことも難しいので、どのように反映していくのが難しいと思った。相談支援事業所では各種サービスを組み立てておられるが、重度の方の場合、意見を聞くのは30歳、40歳になっても家族になってしまう。今回のグループインタビューでは、保護者へのインタビューがなかったので、本人に代わって家族の意見が反映されないのは少し残念かと思った。

委員長：

- あと2つのグループは、9月4日、5日に行う。グループによって、争点、論点が異なっており、少し問題かとも思った。グループインタビューをどのように計画に反映していくのかを次の委員会でまとめを出して検討していただきたい。他の委員も参加いただければと思う。

P委員：

- 今回のグループインタビューで良いと思ったのは、計画策定ではサービス量が先行してきたが、当事者の質的なものが発言されるようになってきたので、単に目標量を設定するだけではなく、障害福祉計画にそのような質的なことが盛り込めるかどうか、そのように計画が変わっていく時期かと思った。
- 共通課題では、障害福祉サービスから介護保険サービスという65歳問題を豊岡ではどう対応するのかということがあると思う。これは障害だけの問題ではない。看護多機能でやれそうだとやっているが制度上できないとなっていることなど。豊岡では、障害と介護を切り分けるのはできないのではないかとということで、地域包括ケアの実現のチャンスでもあると思う。
- また、具体的施策に関する宿題は、計画には書けないと思うが、意見を何年にもらい、何年に解決したということ、付録として載せればどうかと思う。市としては今後の課題としか答えられないと思うが、そのような履歴を残しておけば、次の3年先でも、これまでの経緯がわかって、当事者にとってもよいことではないかと思う。

副委員長：

- グループインタビューを受けて、これを策定・推進委員会の中だけで議論していてもしかたない、解決しないと思った。市の障害者自立支援協議会があるので、そういうところにつなげていけないかと思っている。

C委員：

- グループインタビューを聞いて20年間も言い続けているというようなことがあり、解決していないということでは、この会議は何のためのものかと思った。
- タクシー券についても、市としては何がだめなのか、予算がないのか、きちんと詰めないと言っぱなしになって、何も解決しないのであればこの会議の意味がないのではないか。
- 他の組織や機関など相手がある場合は難しいと思うが、タクシー券の問題などは解決できるのではないか、一歩でも前進してほしい。

委員長：

- グループインタビューはあと2回を残しており、アンケートも含めて最終結果を次回委員会で報告いただいて詰めていきたい。
- グループインタビューに出席したが、不満の意見は多い。こういう機会があってよかった、まちをどうしようかという意見もあった。これをきっかけに、新たな支援や取組もできるのではないかと思った。

(3) 第4期障害福祉計画の成果目標等の進捗状況について

- 事務局より、資料3に基づき説明。

副委員長：

- 1、2ページについて、就労移行支援事業所が減ったから、就労移行が減ったのではなくて、就労移行の実績が少なくなってくるのが、事業所が減ってきている一つの原因ではないか。その背景には一般就労が増えていることもある。

P委員：

- 実績データやグループインタビュー、事業所の意見などを聞いて、なぜこの数字になっているのか分析していく必要がある。目標数値が正しかったのかという点では、目標値が低ければクリアは簡単であるし、実態に合わない高い設定であれば設定自体が問題である。
- 例えば、1ページについて推測であるが、地域生活移行は、今はほとんど使われていなくて施設入所者が実績として減っている。これは、亡くなればそれだけで減ってくるが、どのようなことが原因なのか分析が必要である。一般就労移行は制度が難しく、期間が決められてその間に就労移行させなければいけない。事業所は、A、Bの同じ障害者で制度に合っている人を適当に集めてもできるが、事業所の方が考え方の整理ができていないだけではないか。そのため就労移行でできなかった事業所は撤退している。
- 就労移行の制度の使い勝手が悪いのか、良くするためにはどのような仕掛けが要るのか。発達障害の方たちからも就労に関してもたくさん宿題があるので、そのようなことを計画に反映していく必要がある。
- 撤退した事業者がなぜ撤退したのか、どういうことをすれば就労移行が進むのか、質的議論や分析が必要ではないか。
- 計画値は仮の数値で、実態を上乗せしたものであり、本当の目標数値として何が必要かの議論が必要である。
- 成年後見制度（p 4）は制度としてはありがたいが、一方で、金銭管理の支援を受けるためには何か月も待たないといけないという実態を聞いていると、制度

の有無だけではなく体制の議論が必要である。

- 地域活動支援センターⅠ型、Ⅲ型も利用が少ないのはニーズがないのではなく、地域活動支援センターの活動内容がワンパターン化しており、センターのあり方が本当にそれでよいのかと思う。
- 数値目標をクリアしたかどうかだけでは、グループインタビューの意見などとの乖離が出てしまう。数値目標は大事であるが、クリアできなければ目標を下げようということでは意味がない。
- クリアしていないものには何があるのか、クリアしているが問題はないかなど、そのあたりの分析が重要である。そういう整理をしていただければ、ニーズにあったものが叶えられるのではないかな。障害者自立支援協議会や当事者の意見などから、そういうことを整理していただきたい。

委員長：

- 毎回、数値の変化だけを見ている点について、ご指摘いただいた。次回、このご指摘を踏まえて計画を作成していただきたい。

4. 協議事項

(1) 計画の構成案について

- 事務局より、資料4に基づき説明。

委員長：

- 特に意見はないようであるが、この方向で、次回、次々回に計画が出てくるのでまた、議論をいただきたい。

5. その他

グループインタビュー、障害者自立支援協議会の日程により、次回、第3回は10月30日（月）午後とする。

6. 閉会